

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100141		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホーム ホームタウン宝木（ひいらぎユニット）		
所在地	栃木県宇都宮市宝木町2丁目2563－31（028-623－1485）		
自己評価作成日	平成22年 2月 18日	評価結果市町村受理日	平成22年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	トップページ：介護サービス情報公表システム：栃木県
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター
所在地	栃木県宇都宮市大和2-12-27 小牧ビル3F
訪問調査日	平成22年 3月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

様々な利用者様から様々な事を学び、その人にあった自立を考えられるグループホームを目指しています。そのためには、軽度・自立度の高い利用者様だけを受け入れるのではなく、重度者、支援困難者も受け入れる。そして、様々な利用者様をケアできるよう、健康管理、身体介護、認知症の適切な知識、技術の内部研修、外部研修の機会を設け、主体的に学ぼうとすれば学べる機会を設けています。そして、ゆくゆくは、人が生きるとは、生活するとは、単に生命を維持するのとは違う事に気づき、ケアの有り方、支援のあり方を煮詰められる方向を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価（ひいらぎユニット）	自己評価	自己評価
		実践状況	実践状況	実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がまだ、出来ていないので今後作成予定	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだ、施設が出来て間もないため、地域との交流は少ないが近隣の床屋さんなどは利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。 地域の人々にまで向けることが難しく、職員内での理解だけに留まっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月に初回の運営推進会議を行なったが具体的なことは今後であるが、できれば地域のボランティア等を受入れ、打ち合わせの場的に使いたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政監査、法的な部分の質問等。生活保護課より、生活保護の方も受け入れられるようにする。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における指針はあるが、まだ、一部の職員しか理解していないためこれから全職員が正しく理解できるような場を設けていきたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めてはいるが、知識を学ぶ機会が少なく、一人一人の考えも違うためもっとホームでの統一をはかりスキルを高めたい。	

GHホームタウン宝木, ひいらぎユニット

自己	外部	項目	自己評価（ひいらぎユニット）	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援できていない。 なかなか話し合いをする場が持てないため		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	受け入れ担当が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の家族の方の意見を表せる機会は、ケアプランのサイン時、随時職員へ伝えて頂いている。当然可能な限り運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議があり職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、年に数回面談を行っている。その際質問、要望等が出た場合は可能な限り反映している。例えば、役割分担、ケアのやり方等		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。 年に2回の個別面談と自己評価チェックシートで目標を設定したり、時間外及び休日出勤勤務表で勤務状況と労働時間を把握できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。 法人内でも、その職員の力量にあった研修だったり、法人外でも研修に参加できる環境にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない。 なかなか同業者と話し合いだったり、勉強会をする機会がなく、交流を通じた向上が出来ていない。		

GHホームタウン宝木、ひいらぎユニット

自己 外部	項目	自己評価（ひいらぎユニット）	自己評価	自己評価
		実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。 本人の要望に耳を傾けたり、職員が、本人のやりたいことを考えながらケアを行っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。 家族の方の疑問などにも、職員と話し合いながら、家族に安心してもらえるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方からいただくアセスメント表により対応。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まだ充分築けていないが、掃除、料理、洗濯関係の家事を一緒に行ったり、主体的に運動ができる様に働き始めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を自由に来ていただいている、家族の方からの要望もできる範囲で叶えていこうとする職員の動きが見える。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を自由に来ていただいている。家族等の外出、外泊も自由である。電話も本人が直接かける事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立してしまうご利用者の方に対して、職員からの声かけ、個別の散歩、全体での体操を導入している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても本人や家族から相談があれば必要に応じて対応できる。	

GHホームタウン宝木、ひいらぎユニット

自己	外部	項 目	自己評価（ひいらぎユニット）	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場、その場で、利用者の声を聞き入れ、支援に生かしている。また、声なき方は、生活歴、家族からの要望、認知症の症状等を加味し、ケアプランに導入をしているが、各現場職員への浸透は課題である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。利用者の話に耳を傾け、これまでの生活等の話を聴いたりして、本人のケアにつなげられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。 ケース記録を書いて一日の過ごし方をおったり、毎日10時に一人一人バイタルを測り心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。 家族の方や介護計画に関わっている職員さんと話し合いをし本人一人一人の現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	できている。 ケース記録に様子や実践したケアを記入したり業務日誌に気付いたことや職員間の申し送りを記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・家に対する思い、認知症の進行・人間関係の中での不安・ストレス、ADLの低下の防止、職員への不満、健康に対する不安などなど、ニーズに迅速に対応すべきであるが、職員の力量不足が感じられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お誕生日会を行うときなど近所のお寿司屋さんを利用したり床屋を利用している。		

GHホームタウン宝木、ひいらぎユニット

自己	外部	項目	自己評価（ひいらぎユニット）	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方のかかりつけの病院がある場合は家族の方対応で行っていただいておりますが、特にない場合は、定期・不定期に関わらず、職員対応で施設対応の病院にかかっている。通院の間隔は2週間～4週間程度。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。 週に1回訪問看護の方に来ていただける環境にあり、職員がわからない所は看護師の方に相談をし適切な看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には、医師からの情報を仰ぎ早く退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階では医療依存度が高まるとホームで見ることが困難になる一方、重度化が理由で退所の要件に該当しない事を説明。現段階では終末期ケアは発生していないが、発生した際には、医師の見解、家族の意見、社会資源等を勘案し、検討していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成21年3月に応急手当の訓練を施設で行っているがその後定期的な訓練はしていない。マニュアルは作成してある。職位のレベルは個人差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の火災等はスタッフ数も確保されており問題なさそう。夜間の火災の場合は警備会社職員が1名応援に来ることになっているが、数の問題が出そうである。		

GHホームタウン宝木, ひいらぎユニット

自己 外部	項目	自己評価（ひいらぎユニット）	自己評価	自己評価
		実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんを目上の方、一人の人格者として、混乱し行動障害が見られる利用者さんにも時間をかけ丁寧に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている。 本人がやりたい希望など会話をしながら、自己決定できるように働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。 本人が自分のペースで過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。 本人とのコミュニケーションを通し、好みの色だったり洋服を選んでもらってる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対応としては、刻み食、副食を3品以上、同じメニューが続かないように等対応している。 食事の内容はよくなりつつあるが、楽しい食事の雰囲気創り、食事をケアとして取り組む姿勢が弱い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。 食べる量や水分量を健康管理簿に記入し職員に申し送りをし、職員が把握できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じて対応をし、本人が出来る箇所はしっかり行えるように支援しているが、夜の1回だけなので今後もっと回数を増やしていきたい。	

GHホームタウン宝木、ひいらぎユニット

自己	外部	項目	自己評価（ひいらぎユニット）	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。 一人ひとりの排泄のパターンを理解し、職員同士でのケアを統一している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。 起床したら牛乳を飲んでもらったり、運動をしてもらったり、腹部マッサージをしたりと個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調などに気を付け、また、医師の指示に従い、入浴がリラックスできるよう支援している。入浴時間は午後、要望のある利用者さんは入浴時間が固定されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。 本人が眠くなってから居室に誘導し、安心して眠れるように0時、3時、5時30分に職員が定期巡回を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一部の職員しかできていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援できていない。 全く出来てないわけではないが、本人個々の楽しみになるようなことができていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方との外出、外泊は自由である。個人の買い物、ホーム外の散歩、ドライブも取り入れているが、絶対量が少ない。もう少し、一人ひとりのその日の希望に応じて外出の機会を増やす必要が有る。		

GHホームタウン宝木, ひいらぎユニット

自己	外部	項目	自己評価（ひいらぎユニット）	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。 全員とはいきませんが、お金を自己にて管理出来る方には所持したり使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。 本人が電話を使用したいと訴えがあった時に施設の電話を自由に使ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにある掲示板を月ごとにその季節に合った貼り絵をしたり廊下に写真を飾ったりしている。温度は職員冷暖房の設定温度をまめに調整、採光は、天窓、カーテン等で対応		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルがある席とは別にソファが置いてありソファを自由に使ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。 本人が今まで家で使っていた使い慣れたタンスやベッドをそのまま使用してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが3つあるがどのトイレにもカタカナで「トイレ」と書いてあったり、居室のドア部分に顔写真を貼ったり、日めくりカレンダーがある。		